

冒 険家の三浦雄一郎氏が、80歳で世界で初めてエベレスト登頂に成功とのニュースが先月、日本中を駆け巡った。快挙である。

地道なトレーニングにより、5年前に比べて体力測定で脚力や背筋力等が向上しているのだから驚きだ。また、夢を持ちその実現へ向けて毎日ハリのある生活を送っていたためか、高齢者に特有な脳の委縮がほとんど見られないと言う。まさにスーパーシニアである。

一方、同じ時期に厚労省から「65歳以上の高齢者のうち、認知症の人は推計15%で、2012年時点で約462万人に上る」ことが発表された。4人に1人が認知症とその「予備軍」であるそう。その中には病気以外に、自分自身や周囲の人が高齢という理由だけで「そんな事は危険だから、無理はしないように」とその行動に枷を嵌めていたために症状を発したという例も指摘されている。

この二つの対照的なニュースは、高齢化社会を生きる我々に貴重な示唆を提供してくれているようだ。不老長寿は人類の永遠のテーマである。無論、誰でも三浦氏のようになれるわけではないが、ささやかでも良いから自分なりに常に挑戦する夢や目標を持つことの大切さを改めて教えられたものである。(A.N)

子 供の頃に比べるとセミの鳴き声がめっきり減った気がする。異常気象の影響だろうか。ただ、電話線に穴をあけ卵を産み付けることで発生する通信トラブルは軽減しているかもしれない。セミは土の中で7年過ぐすと習った気がするが、種類によりまちまちだそう。中には17年経たないと地上に出ない(じゅうしちねんぜみ)というものもある。なぜこんなセミが生まれたのか。

17という数字は1とそれ以外は割り切れない素数。もしこのセミの天敵になろうとした場合、地上に1年ごとに出てくるか、17年に1度出てくるか、17の倍数で出てくるしかない。仮に1年ごとに出てこようと思っても餌のない中、17年間、子孫を残し続けないとこのセミに出会えないことになる。

つまり素数の方に出会うことはまさに奇跡。素数年齢の独身の方、もしくは素数の異性と出会ったら(奇跡の出会い)と誘ってみたいだろうか。かくいう私も素数の年齢となった。(H.O)

先 日、とうとう痛風発作を初体験してしまった。ここ数年、人間ドックでの尿酸値が上昇傾向にあり不安だったのだが、左足親指の強烈な痛みはある朝突然襲ってきた。

酒好きな私としては、もう飲めなくなるのかと絶望的な気持ちになったが、とりえず痛風がどんな病気か調べてみたところ、意外な事実遭遇。巷ではビールが悪であるかのように叩かれているが、確かに酒類全般の中でプリン体含有量はダントツに多いにしても、食品全般で見れば極めて含有量が少ない部類に入るのだ。

思うにビールは食欲をそそり、プリン体を多く含む美味いつまみを食べ過ぎさせてしまうのがいけないのではないかと。だからといって、ビールをがぶ飲みしていいというわけではなく、酒類の場合、プリン体よりもアルコールそのものの方が尿酸を増やすうえでよくないそう。痛風治療のポイントは、アルコール(全般)の過剰摂取の回避とストレス解消、および体重コントロールのようである。良い仕事をするには、健康管理も重要だということに身染みて感じた出来事だった。(Y.H)

こんな時が危ない!

- 工事繁忙期よりも、終期、特に撤収作業時
- 非常に危険と思われる作業よりも、それほど危険と思われない作業時
- 同一作業が長く続くよりも、1日~2日とか半日、あるいはもっと短時間で終わる作業時
- わかりきった常識的な作業手順を守らない時
- 作業時に積極的な人が、指示以外の作業をした時
- 安全設備を取りつける段取りに取りかかる前
- 教育を十分うけているはずの職長や工事監督がルール無視の行動をした時
- 立入り禁止箇所、危険箇所を承知して、そこへ行った時

投稿をお待ちしています!

- ☆ 本誌ならびに電気通信工事業務に係わる建設的なご意見、ご感想、ご要望等をお寄せください。
- ☆ 400~800字程度
- ☆ 送付先 〒150-0033 渋谷区猿楽町3-3 (一社)情報通信エンジニアリング協会『Raisers』編集事務局
- ☆ 採用させていただいた方には薄謝を進呈いたします。

Raisers第61巻第4号(通巻第701号) 平成25年7月5日印刷 平成25年7月10日発行

定価630円(本体価格600円) ※会員、特別会員の本誌の購読料は、会費の中にこれを含む

■編集 一般社団法人情報通信エンジニアリング協会 〒150-0033 東京都渋谷区猿楽町3-3

Tel. (03) 3464-3211(代) Fax. (03) 3464-3216

■発行所 一般社団法人電気通信協会 〒163-1455 東京都新宿区西新宿3-20-2 東京オペラシティタワー13F

Tel. (03) 5353-0184 Fax (03) 5353-0194

(本誌掲載記事の無断転載を禁じます。)